

紙藍会便り

2019年 第34号
組合員社数：27社
発行月：2019年1月

目次

- 1. 巻頭雑句
- 2. いすゞトラック説明会
- 3. 六地区懇談会(大阪)
- 4. 造幣局視察
- 5. アンケートデータ

巻頭雑句 ～ 知らんかい

第27回

2018年を振り返り
新年あけましておめでとう
ございます。昨年
2018年は、物事の明
暗がはっきりする年といわ
れる成年であったが、前年
がどのような年であったか
改めて振り返ってみたい。

① 平昌オリンピック開催
・ 2月に、冬季オリンピック
クが開催され、日本は計1
3個のメダルを獲得し、冬
季最多を記録した。

② 中国、MIX輸出禁止令
・ 中国向けの雑誌(MIX)
が、3月より完全に輸出禁
止となり、より厳格な選別
基準を満たす、「N.O.10」
での輸出がはじまった。

③ 西日本豪雨
・ 7月初旬、岡山・広島・
愛媛を中心に、西日本各地
で豪雨災害にみまわれた。

④ 北海道地震
・ 9月、北海道の胆振地方
を震源とする大地震が発生

した。地震により、火力発電
所等が停止し、管内のほぼ
全域で、電力供給が止まる
日本初のブラックアウトが
発生した。

⑤ 米中貿易摩擦
・ 3月、現在まで、米中間
での貿易摩擦が続いている。
古紙においても中国は、8
月よりアメリカに対し2
5%の関税をかける事とな
り、日本の輸出古紙急騰の
要因となった。

⑥ 全世界的に環境規制強化
・ 中国向けの廃プラや雑品
類の輸出規制により、中国
向けから行き先を変えた大
量の廃プラ等が、東南アジ
ア各国に輸出されたが、品
質に問題が多く、規制強化
等により中国同様、受け入
れを禁止する国がでてきた。
また、世界的にビニール
やプラ製ストローを排除す
る動きが加速している。

⑦ 古紙価格の乱高下
・ 年初から年末にかけ、価
格変動が極端に激しい一年
となった。年初は、中国輸出

規制強化により市況は下落
し、年半ば以降は米中貿易
摩擦の影響等により記録に
残る高騰・急騰となったが、
年末頃には急速に下落した。

⑧ 今年の漢字一文字
・ 毎年清水寺にて発表され
る、今年の漢字一文字は
「災」となった。多発した自
然災害、ハラスメント等の
人為的災害により決定され
た。

と、2018年も多々
多くの出来事がおこった一
年であった。本年
2019年は己亥年とな
り、守りの年とも無病息災
の年ともいわれ、また平成
最後の年ともなる。
今年も多くの事がおこるで
あろうが、明るい出来事の
みであることを望みたい。

紙藍会便り編集部



10月9日、月例会開始前に、いすゞ自動車九州(株)福岡支店の瀧口氏よりいすゞトラックの説明会をおこなっていただいた。初期に多く発生していたDPPD関連の不具合が現在では、改良版により解消されてきている事と、今後の排ガス規制強化により、DPPD+尿素対応型の車両に今後更新されていくとの話がなされた。



説明会様子

11月8日、大阪にて六地区懇談会が開催された。また、懇談会前に紙藍会月例会を会場別室にておこなった。懇談会内容としては、発生減・輸出高騰について・2020年問題について・求人、人手不足対策について等が議論された。報告内容として、関東地区より中国ナインドラゴンの視察報告、中部FCよりベトナム視察報告がなされた。

また、翌日11月9日、大阪にある独立行政法人造幣局本局の工場見学・貨幣博物館の視察見学をおこなった。受付をすませ中に入り、簡単なビデオ上映による業務内容の説明を受け、工場内の見学となった。現在では検査や運搬などの多くの業務を機械で行っている為、人手はそこまでかかっていないようにみえるが、細かな作業ではまだ人手が必要となっており、またほんの数年前までは多くの業務を人手でしておこなっていたとの事。貨幣が製造されていく現場をみると、まさに工業製品そのものであり新鮮味を感じた。隣接する博物館には世界各国新旧様々な貨幣やメダル等が展示されており、大判・小判や普段見る事のない海外の特殊貨幣等珍しい物が多くあった。身近な存在である貨幣について、より深く知る良いきっかけとなった。



造幣局前にて

9月・10月・11月 バラ物数量対前月・前年推移データ(平均値記載)

(単位%)	段ボール			新聞			雑誌		
	9月	10月	11月	9月	10月	11月	9月	10月	11月
対前月	92.5	98.92	96.07	93.15	104.55	97.31	88.64	109.33	99.5
対前年	94.07	99.58	99.36	91.54	95.55	88.77	84.43	92	95.71

詳細なアンケートデータは紙藍会定例会時に配布しています。